

授 業 科 目	特別学修(電気主任技術者：2 種)		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択（特別学修）・4 単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科 1 ～ 5 年 ・ 通年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	電気主任技術者、電気工作物、電気施設管理		
関 連 科 目	電気回路 IA・IB・IIA・IIB・IIIA・IIIB、電気磁気学 IA・IB・IIA・IIB・IIIA・IIIB、電子計測、電気機器 I・II、パワーエレクトロニクス、制御工学、電力工学 I・II、高電圧大電流工学、電気電子材料、電子回路 I・II、ディジタル回路 I・II、情報伝送工学、情報通信、電気法規等、電気電子系科目の全般		
担 当 教 員	上原 正啓		
連絡先(オフィス・アワー)	uehara@e.kisarazu.ac.jp		
教 科 書	飯田芳一著『電験二種徹底マスター 理論 (改訂 2 版)』オーム社、2018 年、3800 円(+税) 飯田芳一他著『電験二種徹底マスター 機械 (改訂 2 版)』オーム社、2018 年、3800 円(+税) 早苗勝重著『電験二種完全マスター 電力』オーム社、2017 年、3800 円(+税) 新井信夫著『電験二種完全マスター 法規』オーム社、2017 年、3400 円(+税)		
補 助 教 科 書 等	OHM編集部編『10 力年収録 電験二種一次試験 完全解答』オーム社、2021 年、4000 円(+税)		
参 考 図 書			
プ ロ グ ラ ム 目 標	電気工作物を工事・維持・運用する際に必要となる電気主任技術者免状を認定するために実施される電気主任技術者国家試験について、第 2 種電気主任技術者試験の合格を目標とする。		
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
電気工作物を工事・維持・運用する際に必要となる電気主任技術者免状を認定するために実施される電気主任技術者国家試験について、第 2 種電気主任技術者試験の合格を目標とする。		第 2 種または第 1 種電気主任技術者試験に合格すること (100%)	
履 修 上 の 注 意	数学・物理学等の一般科目と、電気電子系のほとんどすべての科目を十分に理解し、できるだけ多くの問題に挑戦する。問題が解けなかった場合は、どこかの理解が足りなかったのかを反省し、理解できなかった箇所を再度学習する。多くの問題を解いて行くにつれて、自然に理解が深って行く。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
4～8 月中に、下記スケジュールに基づき、週 4 時間は担当教員のもとで学習する 4 月 理論の学習 5 月 機械の学習 5 月 16 日～6 月 2 日 受験申し込み 6 月 電力の学習 7 月 法規の学習 8 月 総まとめ：模擬試験を実施 8 月 20 日 電気主任技術者試験一次試験 9 月 受験報告書の作成 二次試験対策学習 10 月 二次試験対策学習 11 月 二次試験対策学習 11 月 13 日 電気主任技術者試験二次試験		・電気回路、電気磁気学、電子回路、電子計測 ・電気機器、制御工学、パワーエレクトロニクス ・電力工学、高電圧大電流工学、電気電子材料 ・電気法規と電気施設管理 ・模擬試験を実施 ・受験報告書の作成 ・二次試験に対する学習	
成績の算出方法	第 2 種または第 1 種電気主任技術者試験を合格したものに対して、評語 A で 4 単位を認定する。		

授 業 科 目	特別学修(電気主任技術者：3 種)		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択 (特別学修) ・ 2 単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科 1 ～ 5 年 ・ 通年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	電気主任技術者、電気工作物、電気施設管理		
関 連 科 目	電気回路 IA ・ IB ・ IIA ・ IIB ・ IIIA ・ IIIB、電気磁気学 IA ・ IB ・ IIA ・ IIB ・ IIIA ・ IIIB、電子計測、電気機器 I ・ II、パワーエレクトロニクス、制御工学、電力工学 I ・ II、高電圧大電流工学、電気電子材料、電子回路 I ・ II、ディジタル回路 I ・ II、情報伝送工学、情報通信、電気法規等、電気電子系科目の全般		
担 当 教 員	上原 正啓		
連絡先(オフィス・アワー)	uehara@e.kisarazu.ac.jp		
教 科 書	深澤一幸著『電験三種 なるほど 電力』オーム社、2019 年、2600 円(+税) 深澤一幸著『電験三種 なるほど 法規』オーム社、2019 年、2500 円(+税)		
補 助 教 科 書 等	オーム社編『2022 年版 電験三種過去問詳解』オーム社、2021 年、3000 円(+税)		
参 考 図 書			
プ ロ グ ラ ム 目 標	電気工作物を工事・維持・運用する際に必要となる電気主任技術者免状を認定するために実施される電気主任技術者国家試験について、第 3 種電気主任技術者試験の合格を目標とする。 具体的には、試験科目である理論・機械・電力・法規の 4 科目のうち、理論と機械の 2 科目は既に合格しているとの前提で、残りの 2 科目である電力と法規の合格を目指す。		
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
電気工作物を工事・維持・運用する際に必要となる電気主任技術者免状を認定するために実施される電気主任技術者国家試験について、第 3 種電気主任技術者試験の合格を目標とする。		第 3 種電気主任技術者試験に合格すること (100%)	
履 修 上 の 注 意	2 ～ 4 年で学習する電気回路と電気磁気学をよく理解し、できるだけ多くの問題に挑戦する。 問題が解けなかった場合は、どこかの理解が足りなかったのかを反省し、理解できなかった箇所を再度学習する。多くの問題を解いて行くにつれて、自然に理解が深まって行く。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
4～8 月中に、下記スケジュールに基づき、週 4 時間は担当教員のもとで学習する			
4～5 月		1. 電力編 1 2. 電力編 2 3. 電力編 3 4. 電力編 4 5. 電力編 5 6. 電力編 6 7. 電力編 7	
5 月 16 日～6 月 2 日 受験申し込み			
6～7 月		8. 法規編 1 9. 法規編 2 10. 法規編 3 11. 法規編 4 12. 法規編 5 13. 法規編 6 14. 法規編 7	
8 月		15. 総まとめ	
8 月 21 日 電気主任技術者試験を受験			
9 月 受験報告書の作成		・ 受験報告書の作成	
成績の算出方法	第 3 種電気主任技術者試験を合格したものに対して、評語 A で 2 単位を認定する。		

授 業 科 目	特別学修(電気主任技術者：科目合格)		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択(特別学修)・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科1～5年・通年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	電気主任技術者、電気工作物		
関 連 科 目	数学・物理学・化学等の一般科目、電気回路ⅠA・ⅠB・ⅠⅡA・ⅠⅡB・ⅠⅢA・ⅠⅢB、電気磁気学ⅠA・ⅠB・ⅠⅡA・ⅠⅡB・ⅠⅢA・ⅠⅢB、電子計測、電気機器Ⅰ・Ⅱ、パワーエレクトロニクス、制御工学、電子回路Ⅰ・Ⅱ、デジタル回路Ⅰ・Ⅱ、情報伝送工学、情報通信		
担 当 教 員	上原 正啓		
連絡先(オフィス・アワー)	uehara@e.kisarazu.ac.jp		
教 科 書	深澤一幸著『電験三種 なるほど 理論』オーム社、2018年、2600円(+税) 深澤一幸著『電験三種 なるほど 機械』オーム社、2019年、2800円(+税)		
補 助 教 科 書 等	オーム社編『2022年版 電験三種過去問詳解』オーム社、2021年、3000円(+税)		
参 考 図 書			
プ ロ グ ラ ム 目 標	電気工作物を工事・維持・運用する際に必要となる電気主任技術者免状を認定するために実施される電気主任技術者国家試験について、第3種電気主任技術者試験の2科目を合格することを目指す。具体的には、第3種の試験科目である理論・機械・電力・法規の4科目の中から、理論と機械の2科目の合格を目指す。		
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
電気工作物を工事・維持・運用する際に必要となる電気主任技術者免状を認定するために実施される電気主任技術者国家試験について、第3種電気主任技術者試験の合格を目指す。		第3種電気主任技術者試験の4科目中2科目以上に合格すること(100%)	
履 修 上 の 注 意	2～4年で学習する数学、物理学、化学、電気回路、電気磁気学をよく理解し、できるだけ多くの問題に挑戦する。問題が解けなかった場合は、どこかの理解が足りなかったのかを反省し、理解できなかった箇所を再度学習する。多くの問題を解いて行くにつれて、自然に理解が深まって行く。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
4～8月中に、下記スケジュールに基づき、週2時間は担当教官のもとで学習する			
4～5月			
1. 理論編1			
2. 理論編2		・ クーロンの法則とコンデンサ	
3. 理論編3		・ 抵抗値の計算、直流電圧・電流の計算	
4. 理論編4		・ 交流波形とその瞬時値の計算	
5. 理論編5		・ 単相交流回路の計算	
6. 理論編6		・ 三相交流回路の計算	
7. 理論編7		・ 各種計測器と測定値の計算	
5月16日～6月2日 受験申し込み		・ 電子回路と増幅回路の基礎	
6～7月			
8. 機械編1			
9. 機械編2		・ 直流機の基礎と計算	
10. 機械編3		・ 同期機の基礎と計算	
11. 機械編4		・ 変圧器の基礎と計算	
12. 機械編5		・ 誘導機の基礎と計算	
13. 機械編6		・ 照明の基礎と計算	
14. 機械編7		・ 電熱の基礎と計算	
8月		・ 自動制御の基礎と計算	
8月21日 電気主任技術者試験を受験		・ 模擬試験を実施	
9月 受験報告書の作成			
成績の算出方法	第3種電気主任技術者試験で、4科目中2科目以上に合格したものに対して、評語Aで2単位を認定する。		

授 業 科 目	特別学修(第一種電気工事士技能試験)		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択 (特別学修) ・ 1 単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科 1 ～ 5 年 ・ 通年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	電気、配電・配線、電気機器、発電・送電		
関 連 科 目	電気回路ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB、電子計測、電気機器Ⅰ・Ⅱ、パワーエレクトロニクス、電力工学Ⅰ・Ⅱ、高電圧大電流工学、電子回路Ⅰ・Ⅱ、電気法規等、電気製図、電気電子系科目の全般		
担 当 教 員	谷井 宏成		
連絡先(オフィス・アワー)	tanii@e.kisarazu.ac.jp		
教 科 書	オーム社編『2022 年版 第一種電気工事士筆記試験 完全解答』オーム社, 2022 年, 2420 円		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プ ロ グ ラ ム 目 標	電気工事士法において規制されている次の電気工事の作業に従事することができる第一種電気工事士の資格を取得することを目的とする。 1. 自家用電気工作物のうち最大電力 500 キロワット未満の需要設備の電気工事 2. 一般用電気工作物の電気工事		
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
第一種電気工事士試験に合格する。		第一種電気工事士試験に合格した者について、評定「A」を認定する (100%)。	
履 修 上 の 注 意	専門科目である電気磁気学・電気回路・電気計測・電気機器・電気製図などをよく理解し、できるだけ多くの問題に挑戦して欲しい。問題が解けなかった場合は、どこかの理解が不足していたのかを反省し、理解できなかった箇所を再度学習する。多くの問題を解いて行くにつれて、自然に理解が深まって行く。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		
【筆記試験】 試験日：10月上旬	1. 電気に関する基礎理論 2. 配電理論及び配線設計 3. 電気応用 4. 電気機器、蓄電池、配線器具、電気工事用の材料及び工具並びに受電設備 5. 電気工事の施工方法 6. 自家用電気工作物の検査方法 7. 配線図 8. 発電施設、送電施設及び変電施設の基礎的な構造及び特性 9. 一般用電気工作物及び自家用電気工作物の保安に関する法令		
【技能試験】 試験日：12月上旬	1. 電線の接続 2. 配線工事 3. 電気機器及び配線器具の設置 4. 電気機器・配線器具並びに電気工事用の材料及び工具の使用方法 5. コード及びキャブタイヤケーブルの取付け 6. 接地工事 7. 電流、電圧、電力及び電気抵抗の測定 8. 一般用電気工作物の検査 9. 一般用電気工作物の故障箇所の修理		
成績の 算出方法	第一種電気工事士試験に合格した者について、評定「A」を認定する (100%)。		

授 業 科 目	特別学修(第二種電気工事士技能試験)		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択 (特別学修) ・ 1 単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科 1 ～ 5 年 ・ 通年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	電気、配電・配線、電気機器、発電・送電		
関 連 科 目	電気回路 IA・IB・IIA・IIB・IIIA・IIIB、電子計測、電気機器 I・II、パワーエレクトロニクス、電力工学 I・II、高電圧大電流工学、電子回路 I・II、電気法規等、電気製図、電気電子系科目の全般		
担 当 教 員	谷井 宏成		
連絡先(オフィス・アワー)	tanii@e.kisarazu.ac.jp		
教 科 書	オーム社編『2022 年版 第二種電気工事士筆記試験 完全解答』オーム社, 2022 年, 2420 円		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プ ロ グ ラ ム 目 標	一般住宅や店舗などの 600 ボルト以下で受電する設備の工事に従事することができる第二種電気工事士の資格を取得することを目的とする。		
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
第二種電気工事士試験に合格する。		第二種電気工事士試験に合格した者について、評定「A」を認定する (100%)。	
履 修 上 の 注 意	専門科目である電気磁気学・電気回路・電気計測・電気機器・電気製図などをよく理解し、できるだけ多くの問題に挑戦して欲しい。問題が解けなかった場合は、どこかの理解が不足していたのかを反省し、理解できなかった箇所を再度学習する。多くの問題を解いて行くにつれて、自然に理解が深まって行く。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
【筆記試験】 試験日 上期：5 月下旬 下期：1 0 月下旬		1. 電気に関する基礎理論 2. 配電理論及び配線設計 3. 電気機器・配線器具並びに電気工事用の材料及び工具 4. 電気工事の施工方法 5. 一般用電気工作物の検査方法 6. 配線図 7. 一般用電気工作物の保安に関する法令	
【技能試験】 試験日 上期：7 月下旬 下期：1 2 月下旬		1. 電線の接続 2. 配線工事 3. 電気機器及び配線器具の設置 4. 電気機器・配線器具並びに電気工事用の材料及び工具の使用方法 5. コード及びキャブタイヤケーブルの取付け 6. 接地工事 7. 電流、電圧、電力及び電気抵抗の測定 8. 一般用電気工作物の検査 9. 一般用電気工作物の故障箇所の修理	
成績の 算出方法	第二種電気工事士試験に合格した者について、評定「A」を認定する (100%)。		

授 業 科 目	特別学修（デジタル検定:2級）		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択（特別学修）・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科1～5年・通年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	電気回路, デジタル回路, コンピュータ, 制御機器, 情報通信		
関 連 科 目	ディジタル回路I・II, 組み込みプログラミング, 情報リテラシー, プログラミングI・II, 電気回路I, 電子回路I・II, 制御工学, 情報通信, ロボット制御		
担 当 教 員	浅野 洋介		
連絡先(オフィス・アワー)	asano@e.kisarazu.ac.jp		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プ ロ グ ラ ム 目 標	やや高級な情報処理理論および情報通信理論を理解し、各種情報処理装置の動作原理および利用技術を知り、設計、運用、応用などの実務ができるようになる、ディジタル検定2級以上の資格を取得することを目標とする。		
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・ デジタル技術検定1級または2級に合格する。(情報部門または制御部門)		合格した者について、評定「A」を認定する（100%）。	
履 修 上 の 注 意			
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ 情報処理に関する学修 ・ コンピュータに関する学修		【情報部門】 ・ 情報処理理論および情報通信理論の知識 ・ ファイル設計およびデータ構造に関する基本知識 ・ 計算機本体装置に関する知識 ・ 計算機周辺機器に関する知識 ・ 計測および制御に関するソフトウェアの知識 ・ 各種の数値解析手法の原理 ・ 高級言語によるプログラミングの設計、試験および運用 ・ システム構成に関するソフト的知識	
・ 電子回路に関する学修 ・ デジタル回路に関する学修		【制御部門】 ・ 電子素子および電子回路 ・ アナログ・ディジタル変換 ・ 論理設計の知識、論理回路の構成 ・ 自動制御理論、計測および制御機器に関する知識 ・ 計算機本体に関する知識 ・ 補助記憶装置および入出力装置に関する知識 ・ システムをはたらかせるソフトウェアの知識 ・ デジタル応用機器	
成績の算出方法	ディジタル技術検定3級に合格した者について、評定「A」を認定する。		

授 業 科 目	特別学修（デジタル検定:3級）		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択（特別学修）・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科1～5年・通年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	電気回路，デジタル回路，コンピュータ，制御機器		
関 連 科 目	ディジタル回路I・II，組み込みプログラミング，情報リテラシー，プログラミングI・II		
担 当 教 員	浅野 洋介		
連絡先(オフィス・アワー)	asano@e.kisarazu.ac.jp		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プ ロ グ ラ ム 目 標	基礎的な論理設計および情報処理の知識を持ち、情報処理装置および制御装置の基本原理並びに簡単な応用技術の原理を理解し、これを利用することができる、ディジタル検定3級の資格を取得することを目標とする。		
達 成 目 標（合 格 点）		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・ デジタル技術検定 3 級に合格する。		合格した者について、評定「A」を認定する（100%）。	
履 修 上 の 注 意	・		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ 電気回路に関する学修 ・ デジタル回路に関する学修 ・ 計測制御に関する学修 ・ コンピュータに関する学修		・ 電子部品および電気回路の基礎知識 ・ アナログ・ディジタル変換の概念 ・ 2進数、10進数および16進数による演算、相互変換 ・ 論理関数の基本原理，論理回路の構成 ・ 簡単な計測、制御機器および素子に関する知識 ・ 原理的な計算機の構成および制御の考え方 ・ 計算機システムを構成する各種機器の機能概要および用途 ・ 各種ソフトウェアの名称、用途および特徴 ・ 日常生活でのコンピュータが利用	
成績の算出方法	ディジタル技術検定 3 級に合格した者について、評定「A」を認定する。		

授 業 科 目	特別学修(プロジェクトマネジメントⅠ)		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択(特別学修)・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科3年以上	授 業 形 態	特別活動
キ ー ワ ー ド	作品製作		
関 連 科 目	技術者入門Ⅰ・Ⅱ, 電気回路Ⅰ・Ⅱ, 電気磁気学Ⅰ・Ⅱ, 実験実習Ⅰ・Ⅱ		
担 当 教 員	小原 翔馬		
連絡先(オフィス・アワー)	ohara@e.kisarazu.ac.jp (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。)		
教 科 書	なし		
補 助 教 科 書 等	なし		
参 考 図 書	なし		
プログラム目標			
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
授業で学んだ知識を総動員して、実際に独創性あふれる製作活動を低学年と共同で行う。設定された課題を解決するために、実際に「もの」を作ること教科書や授業の知識だけではない現実的な対応力を身につける。そして、リーダーシップを発揮し工程管理能力を獲得することが目標である。		報告書の提出、製作物、発表によって評価を受ける。評語Aおよび1単位を認定する。	
履 修 上 の 注 意	低学年と共同で製作を進めていく。技術力の向上、および、リーダーシップやコミュニケーション能力を培うことを目標として、興味を持って楽しく物を作ることが望ましい。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	時間数
・ プロジェクトテーマの決定 ・ 製作物の決定 ・ 製作の遂行 ・ 発表		週2時間、担当教員のもとで低学年と共に行う。課外時間等を利用して、担当教員のもとで実施する。公開の発表会を開く。	30
合計授業時間数(定期試験は除く)			30
成績の算出方法	報告書の提出、製作物、発表によって評価を受ける。評語Aおよび1単位を認定する。		

授 業 科 目	特別学修(プロジェクトマネジメントⅡ)		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択(特別学修)・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科3年以上	授 業 形 態	特別活動
キ ー ワ ー ド	作品製作		
関 連 科 目	技術者入門Ⅰ・Ⅱ, 電気回路Ⅰ・Ⅱ, 電気磁気学Ⅰ・Ⅱ, 実験実習Ⅰ・Ⅱ		
担 当 教 員	小原 翔馬		
連絡先(オフィス・アワー)	ohara@e.kisarazu.ac.jp (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。)		
教 科 書	なし		
補 助 教 科 書 等	なし		
参 考 図 書	なし		
プログラム目標			
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
授業で学んだ知識を総動員して、実際に独創性あふれる製作活動を低学年と共同で行う。設定された課題を解決するために、実際に「もの」を作ること教科書や授業の知識だけではない現実的な対応力を身につける。そして、リーダーシップを発揮し工程管理能力を獲得することが目標である。		報告書の提出, 製作物, 発表によって評価を受ける。評語Aおよび1単位を認定する。	
履 修 上 の 注 意	低学年と共同で製作を進めていく。技術力の向上, および, リーダーシップやコミュニケーション能力を培うことを目標として, 興味を持って楽しく物を作ることが望ましい。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	時間数
・ プロジェクトテーマの決定 ・ 製作物の決定 ・ 製作の遂行 ・ 発表		週2時間, 担当教員のもとで低学年と共に行う。課外時間等を利用して, 担当教員のもとで実施する。公開の発表会を開く。	30
合計授業時間数(定期試験は除く)			30
成績の算出方法	報告書の提出, 製作物, 発表によって評価を受ける。評語Aおよび1単位を認定する。		

授 業 科 目	特別学修(上級プロジェクトマネジメント)		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択 (特別学修) ・ 1 単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科4年以上	授 業 形 態	特別活動
キ ー ワ ー ド	作品製作, 技術指導		
関 連 科 目	技術者入門Ⅰ・Ⅱ, 電気回路Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 電気磁気学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 実験実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
担 当 教 員	小原 翔馬		
連絡先(オフィス・アワー)	ohara@e.kisarazu.ac.jp (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。)		
教 科 書	なし		
補 助 教 科 書 等	なし		
参 考 図 書	なし		
プログラム目標			
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
1年生の技術者入門Ⅰ・Ⅱに対して, 3年生が1年生の技術面の指導補助を行う授業が開設されている。本学修は1年生の指導補助を行う3年生に対して, 主に技術面の指導補助を行う学修である。従って, 3年生の学生だけではなく, 1年生の状況をも見据えて, より高度な管理指導を行うことが目標である。 加えて1年生を指導補助する3年生のリーダーシップやコミュニケーション能力を養うことに配慮する必要もあり, 本学修を通して自身の総合的な指導力を高めることが目標でもある。		報告書の提出, 製作物, 発表によって評価を受ける。評語Aおよび1単位を認定する。	
履 修 上 の 注 意	技術者入門Ⅰ・Ⅱを履修する1年生の技術面の指導を行う3年生に対する指導を行うので, 広い範囲の知識が必要になる。また, 技術者入門Ⅰ・Ⅱを履修する1年生のことも考慮し, 技術的な問題を分かりやすく解説することに配慮する必要がある。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	時間数
・ プロジェクトテーマの決定 ・ 製作物の決定 ・ 製作の遂行 ・ 発表		週1時間, 担当教員の指導のもと, 1年生の指導状況を聞き, 製作指導上の問題点を解決し, 今後の指導方針を決定し, 担当教員への報告書を作成し, 提出する。 放課後あるいは長期休業中に, 担当教員のもとで1年生を指導する3年生に対して, 技術的な指導を行い, 指導内容について, 担当教員への報告書を作成し, 提出する。	30
合計授業時間数(定期試験は除く)			30
成績の算出方法	報告書の提出, 製作物, 発表によって評価を受ける。評語Aおよび1単位を認定する。		